

諏訪の景気動向

平成22年 5月

(平成22年4月末 D・I調査)

平成22年5月26日
岡谷市郷田二丁目1番8号

諏訪信用金庫

経営相談室

諏訪地方の景気動向（平成 22 年 4 月末）

「平成 22 年 4 月末アンケート調査および企業訪問ヒアリング調査からまとめた諏訪地方の景況」

諏訪地方 188 社のご協力を得て行った 4 月末の「景気動向調査（D I 調査）」では、回答全社の「3 ヶ月前」と比べた業況判断 D I は 21.3 と前回調査時（平成 22 年 1 月末、以下同）の△5.3 から 26.6 ポイント改善しプラスに転じた。製造業の業況判断では、「好転」とする企業が 37.0%で同 D I は 28.9 と前回調査時の 12.1 から 16.8 ポイント改善し 4 期連続してプラスを維持している。規模別では「100 人以上企業」の 42.9%、業種別では「一般機械」の 56.3%の企業が「好転」したとしている。また、非製造業の「3 ヶ月前」と比べた業況判断 D I は、商業・建設業はマイナスで推移するも、御柱祭等の効果から観光・サービス業では 48.1%が「好転」したとして同 D I は 1.9 と前回調査時の△54.0 から大幅に改善した。

製造業の「3 ヶ月前」と比べた業況判断 D I は、「好転」企業 37.0%、「悪化」企業 8.1%で同 D I は 28.9 と前回調査時の 12.1 から 16.8 ポイント改善し 4 期連続のプラスとなった。また、「前年同期比」では 69.6%の企業が「好転」しており、同 D I は 57.0 と前回調査時の 10.0 からさらにプラス幅が拡大した。「3 ヶ月前」と比べた受注状況は、「増加」企業の割合が 44.4%あり同 D I は 29.3 と前回調査時の 12.2 から 17.1 ポイント改善した。また、「3 ヶ月後」の受注予想 D I は 6.8 と前回調査時の△8.6 から 15.4 ポイント改善しプラスに転じた。規模別の「3 ヶ月前」と比べた業況判断 D I は、「1~29 人企業」は前回調査時の 10.6 から 15.2 ポイント改善し 25.8、「30~99 人企業」も同 2.2 から 24.6 ポイント改善し 26.8 となっている。また、「3 ヶ月前」と比べた収益性 D I は 2.2 と前回調査時の△12.1 から 14.3 ポイント好転し、平成 18 年 4 月以来 16 期振りにプラスに転じた。ただし、規模別の「3 ヶ月前」と比べた収益性 D I は「1~29 人企業」が△6.1、「100 人以上企業」が 25.0、「前年同期比」では「1~29 人企業」は 1.5、「100 人以上企業」は 42.9 と規模により収益の改善状況に差が出ている。

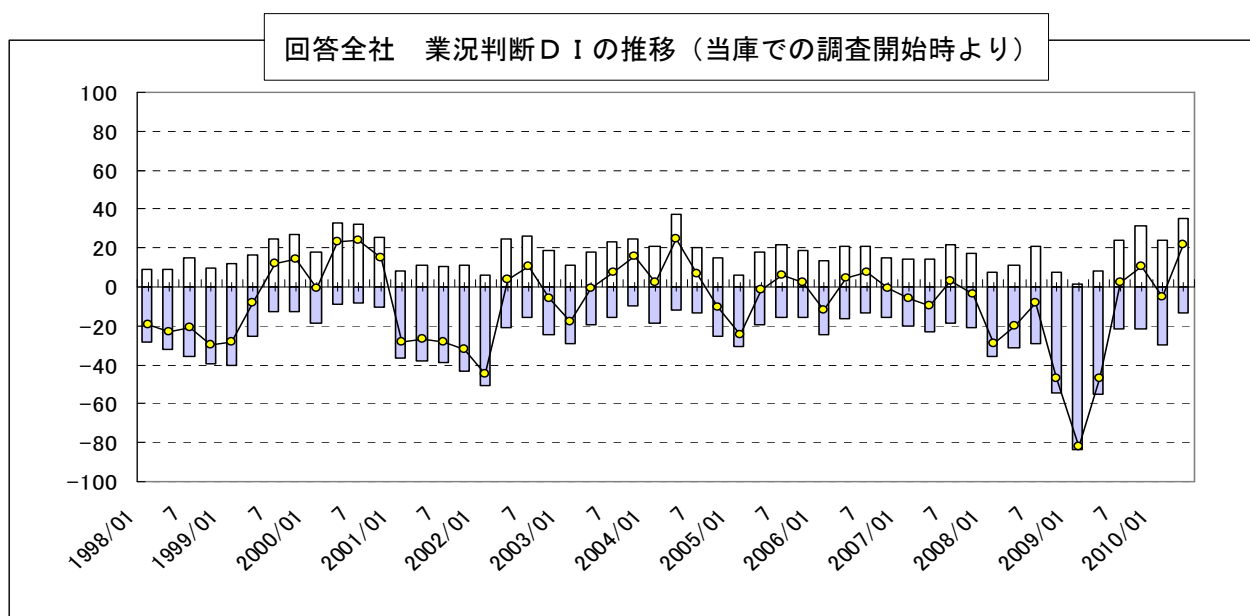
ヒアリング調査では、受注状況は幾分弱含みながらも緩やかな回復傾向がきかれる。ただし、稼働率は向上するもコスト競争が激しく売上高や利益の回復が遅れていることや大手企業が新興国での部品調達をさらに進展させることを危惧する声がかかれる。

商業の「3 ヶ月前」と比べた業況判断 D I は、「横這」企業が 58.3%、「悪化」企業が 33.3%で同 D I は△25.0 と前回調査時から改善しているものの引き続きマイナスで推移している。御柱祭の山出しが行われ、オードブルや清酒、ペットボトル飲料の売れ行きは伸び、お土産では「御柱祭」の名入れのある品物に人気が集まった。一方、4 月中旬に降雪があるなど寒暖の差が激しい気候から、野菜価格の高騰や春物衣料品の売れ行きの低迷、園芸用品の出遅れなどの影響がみられた。また、自動車販売では諏訪地方の 4 月の車庫証明件数（軽除く）は 811 件で前年同月比△57 台（△6.6%）減少と、6 ヶ月振りに前年を下回った。

観光・サービス業は、7年に一度の御柱祭が始まり、4月に行われた山出しへの人出は「上社 50万9千人（前回比+4万9千人）」、「下社 53万6千人（前回比+1万3千人）」とたいへんな盛り上がりを見せた。御柱祭効果から、「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは48.1%の施設で「好転」として同D Iは22.2と前回調査時の△50.0から大幅に改善しプラスに転じた。ただし、「前年同期比」での業況判断D Iは△7.4、客単価D Iは△18.5といずれのD Iでも37.0%の企業が「悪化」としており、水面下のまま推移している。御柱祭の期間中は、満館となるホテル旅館がみられたものの、日帰り宴会の減少や平日は集客が低下したとする声がきかれる。

建設業の「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは、「好転」企業14.3%、「悪化」企業28.6%で同D Iは△14.3と前回調査時の△42.9から28.6ポイント改善した。また、「業況」や「受注状況」の各D Iでは、少数ながらも「好転」とする企業があるものの、「外注発注量」は「3ヶ月前比」・「前年同期比」で「好転」とする企業はなく、下請企業の受注環境の厳しさが伺われる。建築工事は、諏訪地方の3月の新設住宅着工件数は64戸で、昨年同月の123戸から△59戸（△40.8%）減少した。また、平成21年度の累計着工戸数は1,119戸で前年度の1,482戸に比べ△363戸（△24.5%）と大幅に減少し、なかでも「持家」は764戸と過去最小となった。

雇用状況は、平成22年3月の諏訪地方の有効求人倍率は前年同月と同数の0.51倍と30ヶ月振りに前年割れとならなかったものの、依然低水準で推移している。また、長野県の同倍率は0.53倍、全国同倍率は0.49倍となっている。なお、諏訪地域の3月の新規求人（全数）は1,233人で前年同月比+205人（+19.9%）の増加、新規求職者数は1,298人で前年同月比△259人（△16.6%）の減少となっている。製造業の新規求人数は279人と前年同月の53人に比べ426.4%の増加となっている。また、1件10人以上の人員整理は1件25名、事業主都合による雇用保険資格喪失者は94人と前年同月より△686人減少、前月より14人の増加となった。



業況判断D Iの推移 「3ヶ月前と比較して」

回答全社（188社）の「3ヶ月前」と比べて業況判断D Iは、「好転」企業が35.1%、「横這」企業が51.1%、「悪化」企業が13.8%で、同D Iは21.3と前回調査時の△5.3から26.6ポイント改善しプラスに転じた。

製造業の業況判断D Iは、「横這」とする企業が54.8%と最も多いものの「好転」とする企業が37.0%あり、同D Iは28.9と前回調査時の12.1から16.8ポイント改善し4期連続してプラスを維持している。規模別では「100人以上企業」の42.9%、業種別では「一般機械」の56.3%の企業で「好転」したとしている。

非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の業況判断は、商業・建設業はマイナスで推移するも、御柱祭等の効果から観光・サービス業の48.1%が「好転」したとして、同D Iは1.9と前回調査時の△54.0から大幅に改善した。

産業別業況表

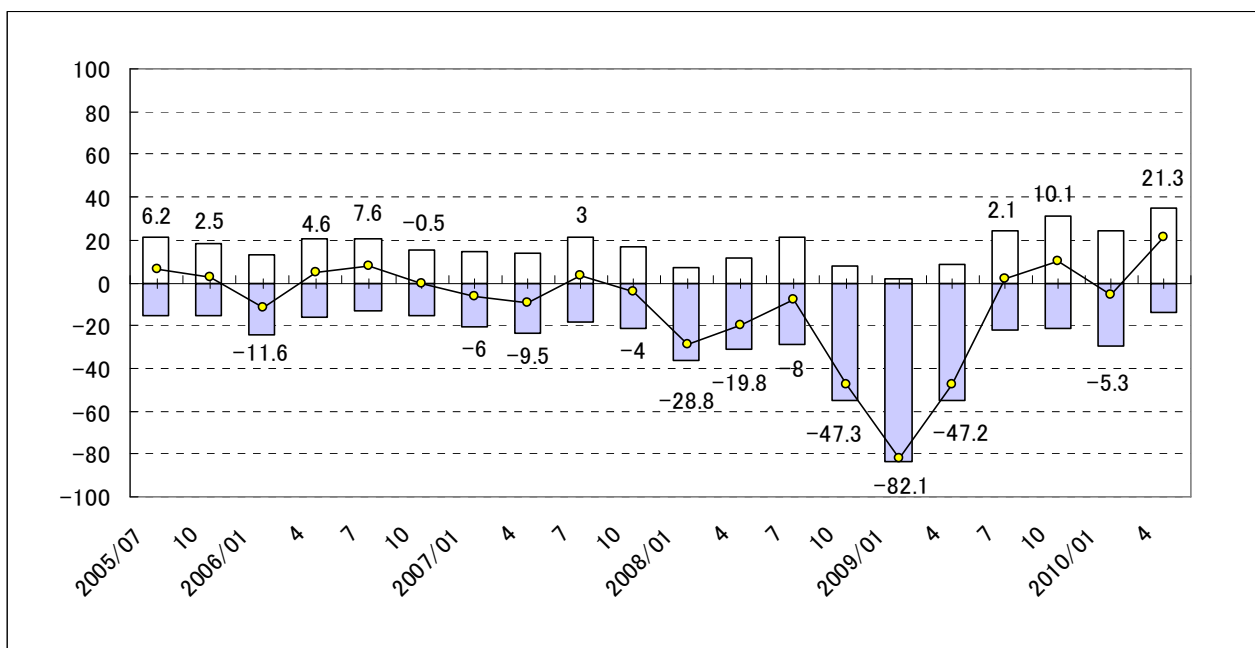
（企業数・%） 表-1

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI
全体	188	35.1	51.1	13.8	21.3	188	55.9	23.9	20.2	35.6	188	17.6	68.6	13.8	3.7
製造業	135	37	54.8	8.1	28.9	135	69.6	17.8	12.6	57	135	18.5	70.4	11.1	7.4
非製造業	53	30.2	41.5	28.3	1.9	53	20.8	39.6	39.6	-18.9	53	15.1	64.2	20.8	-5.7
商業(大型店)	12	8.3	58.3	33.3	-25	12	16.7	25	58.3	-41.7	12	8.3	66.7	25	-16.7
建設業	14	14.3	57.1	28.6	-14.3	14	7.1	64.3	28.6	-21.4	14	7.1	71.4	21.4	-14.3
観光・サービス	27	48.1	25.9	25.9	22.2	27	29.6	33.3	37	-7.4	27	22.2	59.3	18.5	3.7

自社業況判断D Iの推移

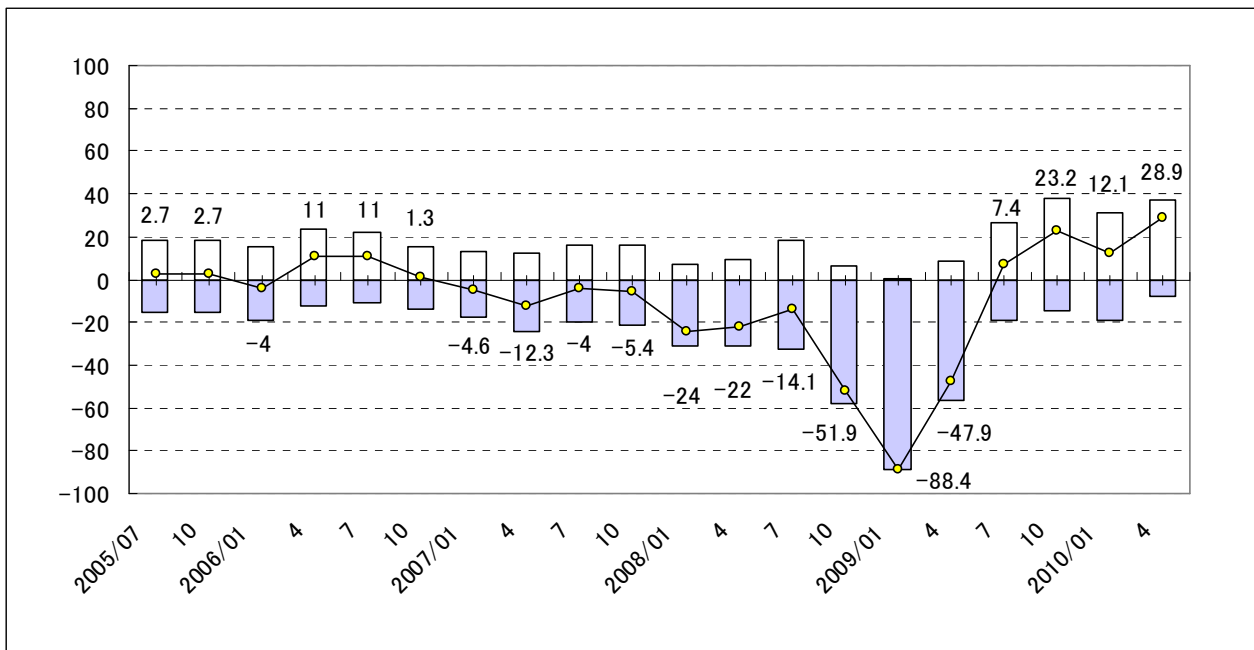
●回答全社：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-1



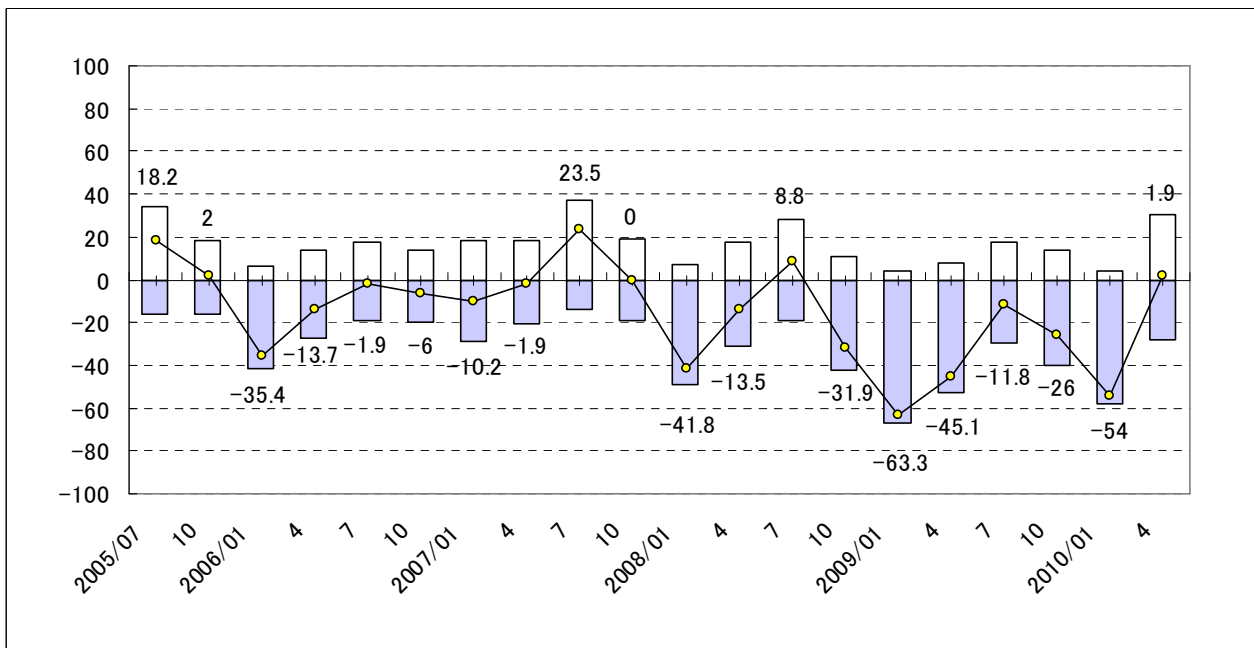
●製造業：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-2



●非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-3



産業別景気動向

1. 製造業

製造業全社の「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは、「好転」企業 37.0%、「悪化」企業 8.1%で同D Iは 28.9 と前回調査時の 12.1 から 16.8 ポイント改善し 4 期連続のプラスとなった。また、「前年同期比」では 69.6%の企業が「好転」しており、同D Iは 57.0 と前回調査時の 10.0 から更にプラス幅が拡大した。「3 ヶ月後」の業況予想D Iでは「横這」とする企業割合が 70.4%と最も多いものの、「好転」とする企業が 18.5%、「悪化」とする企業が 11.1%で同D Iは 7.4 と前回調査時の△3.6 からプラスに転じた。

収益性D Iは、「3ヶ月前」と比べ収益性が「好転」した企業が 20.0%、「悪化」した企業が 17.8%で、同D Iは 2.2 と前回調査時の△12.1 から 14.3 ポイント好転し、平成 18 年 4 月以来 16 期振りにプラスに転じた。規模別の「3ヶ月前」と比べた収益性D Iは「1～29 人企業」が△6.1、「30～99 人企業」が 0.0、「100 人以上企業」が 25.0 と規模により開きがあり、「前年同期比」の同D Iでは「1～29 人企業」は 1.5、「100 人以上企業」は 42.9 とさらに収益の改善状況の差が広がっている。

「3ヶ月前」と比べた受注状況は、「増加」企業の割合が 44.4%あり同D Iは 29.3 と前回調査時の 12.2 から 17.1 ポイント改善した。規模別の「3ヶ月前」と比べた受注状況は、「30～99 人企業」の「前年同期比」の受注状況D Iが前回調査時の△2.2 から 57.5 へと大幅に改善し、「1～29 人企業」の「3 ヶ月後」の受注予想D Iは 4.5 であるが前回調査時の△26.2 からプラスに転じている。業種別の「3ヶ月前」と比べた受注状況D Iは、一般機械・輸送用機械・電気機械は半数以上の企業が「増加」しているとして前回調査時からさらにプラス幅が拡大している一方、精密機械は「不変」とする企業割合が 66.7%で同D Iは△6.7 と前回調査時の△33.3 から改善はしているもののプラスには転じていない。

製造業 業種別・規模別の自社業況表

表-2

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	回答企業	好転	横這	悪化	DI	
製造業	135	37	54.8	8.1	28.9	135	69.6	17.8	12.6	57	135	18.5	70.4	11.1	7.4	
規模	1～29人	66	36.4	53	10.6	25.8	66	62.1	21.2	16.7	45.5	66	16.7	71.2	12.1	4.5
	30～99人	41	34.1	58.5	7.3	26.8	41	75.6	12.2	12.2	63.4	41	22	63.4	14.6	7.3
	100人～	28	42.9	53.6	3.6	39.3	28	78.6	17.9	3.6	75	28	17.9	78.6	3.6	14.3
分類	金属製品製造業	16	37.5	62.5	0	37.5	16	93.8	6.3	0	93.8	16	6.3	75	18.8	-12.5
	一般機械器具製造業	32	56.3	40.6	3.1	53.1	32	65.6	25	9.4	56.3	32	21.9	78.1	0	21.9
	電気機械器具製造業	28	39.3	50	10.7	28.6	28	67.9	17.9	14.3	53.6	28	32.1	46.4	21.4	10.7
	輸送用機械器具製造業	15	46.7	53.3	0	46.7	15	93.3	6.7	0	93.3	15	13.3	80	6.7	6.7
	精密機械器具製造業	15	13.3	73.3	13.3	0	15	66.7	20	13.3	53.3	15	6.7	93.3	0	6.7

①諏訪地方製造品出荷額の70%を占める中分類5業種の業況

●金属製品(プレス、メッキ、熱処理など)

「3ヶ月前比」の業況判断では、「悪化」企業はなく「好転」企業が37.5%であることから同D Iは37.5と前回調査時の5.9から31.6ポイント改善した。また、「前年同期比」では93.8%の企業が「好転」しており、同D Iは93.8と5業種の中で最も高い数値となっている。ただし、「3ヵ月後」の業況予想D Iは△12.5と「横這」企業が75.0%と最も多いものの、5業種の中で唯一マイナスになっている。

●一般機械(工作機械、専用機械、省力機械、検査機械、半導体関連製造設備など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断では56.3%の企業が「好転」したとして同D Iは53.1と前回調査時の16.2から36.9ポイント改善し5業種の中で最も高くなっている。他業種に比べ業況の回復が遅れていたが、「3ヶ月後」の業況予想D Iは21.9と5業種の中で最も高くなっており、緩やかながらも回復傾向がみられる。

●電気機械(家電、パソコン、情報機器、電子デバイス、デジタルカメラなど)

「3ヶ月前」と比べた業況判断は、「好転」企業が39.3%、「横這」企業が50.0%で同D Iは28.6と前回調査時の21.4からほぼ横這いで推移している。一方、「前年同期」と比べた業況判断D Iは53.6と「好転」企業が67.9%あることから前回調査時の△10.7から大幅に改善しプラスに転じた。また、「3ヶ月後」の業況予想は、「好転」32.1%、「横這」46.4%、「悪化」21.4%と5業種の中で最もバラツキがみられるなど、企業により見方が異なっている。

●輸送用機械(自動車関連、ピストンリング、船外機、航空機部品など)

業況判断D Iは、「3ヶ月前比」46.7、「前年同期比」93.3で、双方とも「悪化」したとする企業はなく改善傾向が続いている。ただし、「3ヶ月後」の予想では80.0%の企業が「横這」としており、厳しいコストダウン要請やエコカー補助金等の終了後の不透明感を危惧する声がかかる。

●精密機械(時計、カメラ、光学機器、計量器、医療機器など)

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは0.0と5業種の中で最も低い数値となっているが、前回調査時の△33.3からは回復している。また、業況判断を「横這」とする企業割合は「3ヶ月前比」で73.3%、「3ヶ月後」の予想でも93.3%といずれも5業種の中で最も高くなっており慎重な姿勢が伺われる。

②小分類、他の製造業

小分類の「3ヶ月前」と比べた業況判断は、金属工作機械の同D Iは55.6、自動車関連部品の同D Iは46.2と高水準になっている。

③規模別業況

製造業の規模別の「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは、「1～29人企業」は前回調査時の10.6から15.2ポイント改善し25.8、「30～99人企業」も同2.2から24.6ポイント改善し26.8となっている。また、「100人以上企業」でも42.9%の企業が「好転」として、前回調査時の31.0からさらに改善した。「3ヶ月後」の業況予想D Iは、「1～29人企業」で前回調査時の△21.2から25.7ポイント改善しプラスに転じるなど、全ての規模でプラスではあるが「横這」を予想する企業割合が多い。

④受注状況D I（規模別、業種別）

製造業全社の「3ヶ月前」と比べた受注状況は、「増加」企業の割合が44.4%あり同D Iは29.3と前回調査時の12.2から17.1ポイント改善した。また、受注の底打ち時期であった「前年同期」と比べた受注状況は66.2%の企業で「増加」しており、同D Iは49.6と高水準になっている。また、「3ヶ月後」の受注予想D Iは6.8と前回調査時の△8.6から15.4ポイント改善しプラスに転じた。

規模別の「3ヶ月前」と比べた受注状況D Iは、各規模とも40%以上の企業が「増加」とするなど、それぞれのD I値は前回調査時より大幅に改善している。また、「30～99人企業」の「前年同期比」の受注状況D Iは前回調査時の△2.2から57.5へと大幅に改善し、「1～29人企業」の「3ヶ月後」の受注予想D Iは4.5であるが前回調査時の△26.2からプラスに転じている。

業種別の「3ヶ月前」と比べた受注状況D Iは、一般機械・輸送用機械・電気機械は半数以上の企業が「増加」しているとして前回調査時からさらにプラス幅が拡大している。一方、精密機械は「不変」とする企業割合が66.7%で同D Iは△6.7と前回調査時の△33.3から改善はしているもののプラスには転じていない。また、「3ヶ月後」の受注予想D Iでは、一般機械が前回調査時の△10.8から21.9へ32.7ポイント改善し、電気機械・輸送用機械もそれぞれ10ポイント以上の改善となったが、金属製品では「不変」とする企業割合が最も多いものの同D Iは△12.5と前回調査時の17.6から30.1ポイント悪化しマイナスに転じた。

業種別・規模別受注状況表

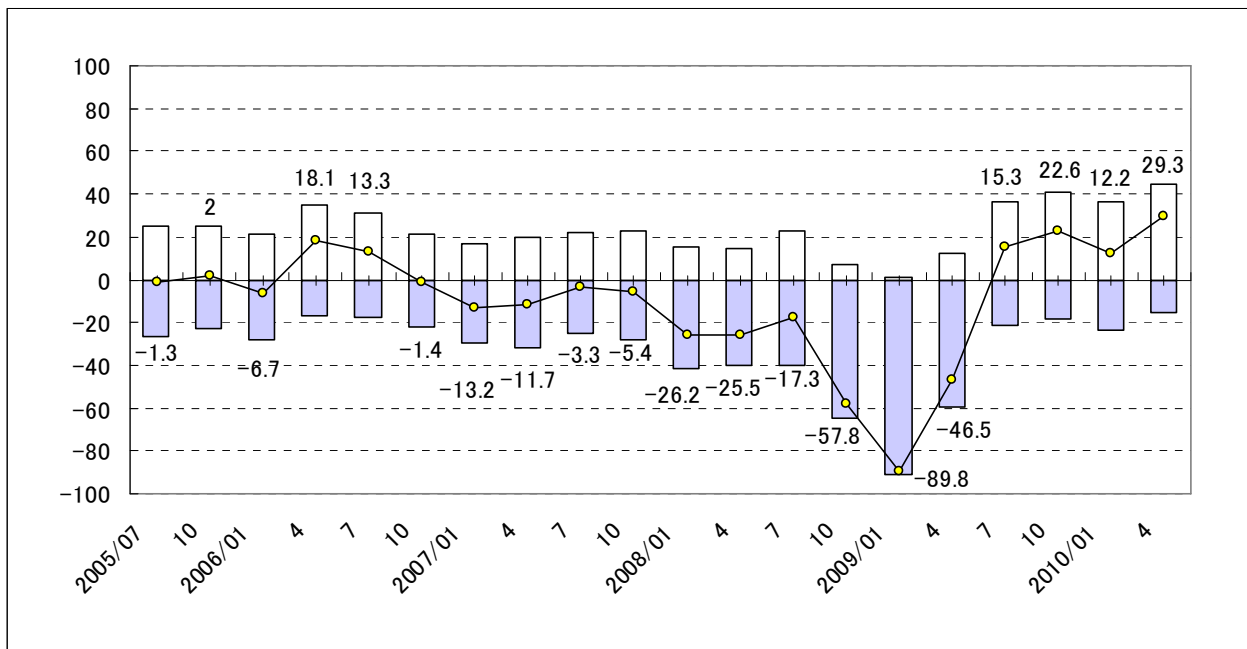
表-3

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想					
	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	回答企業	増加	不変	減少	DI	
製造業	133	44.4	40.6	15	29.3	133	66.2	17.3	16.5	49.6	133	21.8	63.2	15	6.8	
規模	1～29人	66	42.4	37.9	19.7	22.7	66	59.1	22.7	18.2	40.9	66	19.7	65.2	15.2	4.5
	30～99人	40	45	42.5	12.5	32.5	40	75	7.5	17.5	57.5	40	25	55	20	5
	100人～	27	48.1	44.4	7.4	40.7	27	70.4	18.5	11.1	59.3	27	22.2	70.4	7.4	14.8
分類	金属製品製造業	16	37.5	43.8	18.8	18.8	16	87.5	12.5	0	87.5	16	6.3	75	18.8	-12.5
	一般機械器具製造業	32	59.4	31.3	9.4	50	32	62.5	25	12.5	50	32	25	71.9	3.1	21.9
	電気機械器具製造業	27	51.9	37	11.1	40.7	27	66.7	18.5	14.8	51.9	27	33.3	44.4	22.2	11.1
	輸送用機械器具製造業	15	53.3	40	6.7	46.7	15	93.3	6.7	0	93.3	15	13.3	73.3	13.3	0
	精密機械器具製造業	15	13.3	66.7	20	-6.7	15	60	6.7	33.3	26.7	15	13.3	73.3	13.3	0

製造業の受注状況D Iの推移

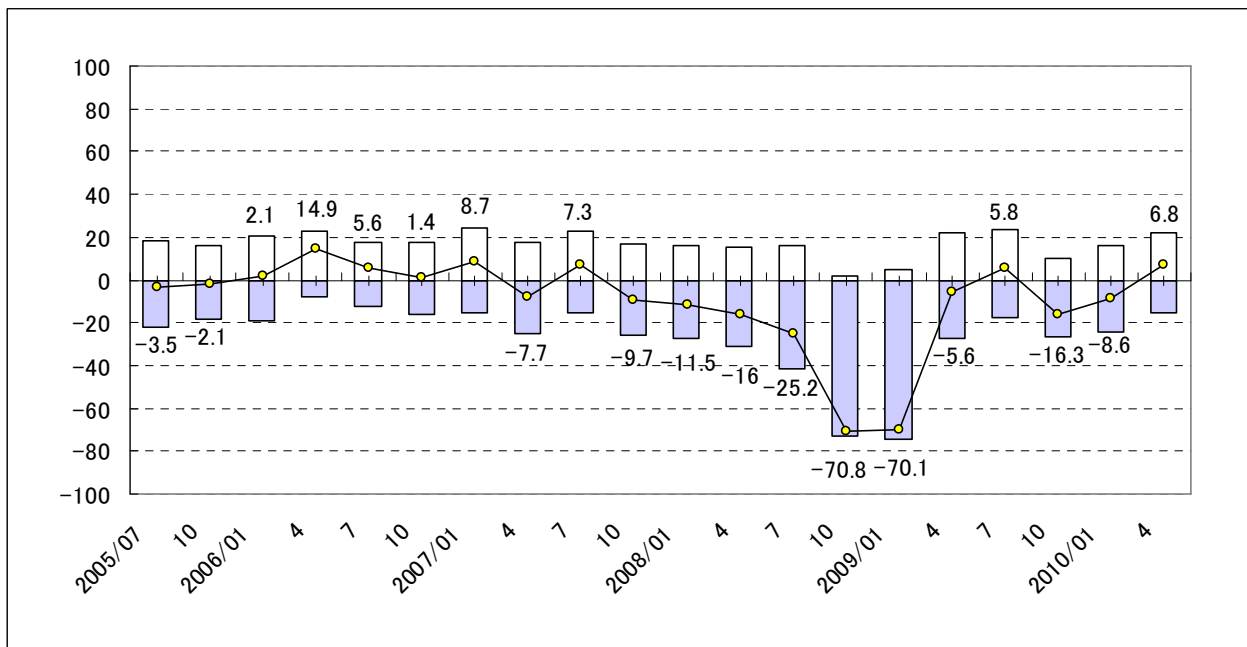
●全社：「3ヶ月前」と比べて

グラフー4



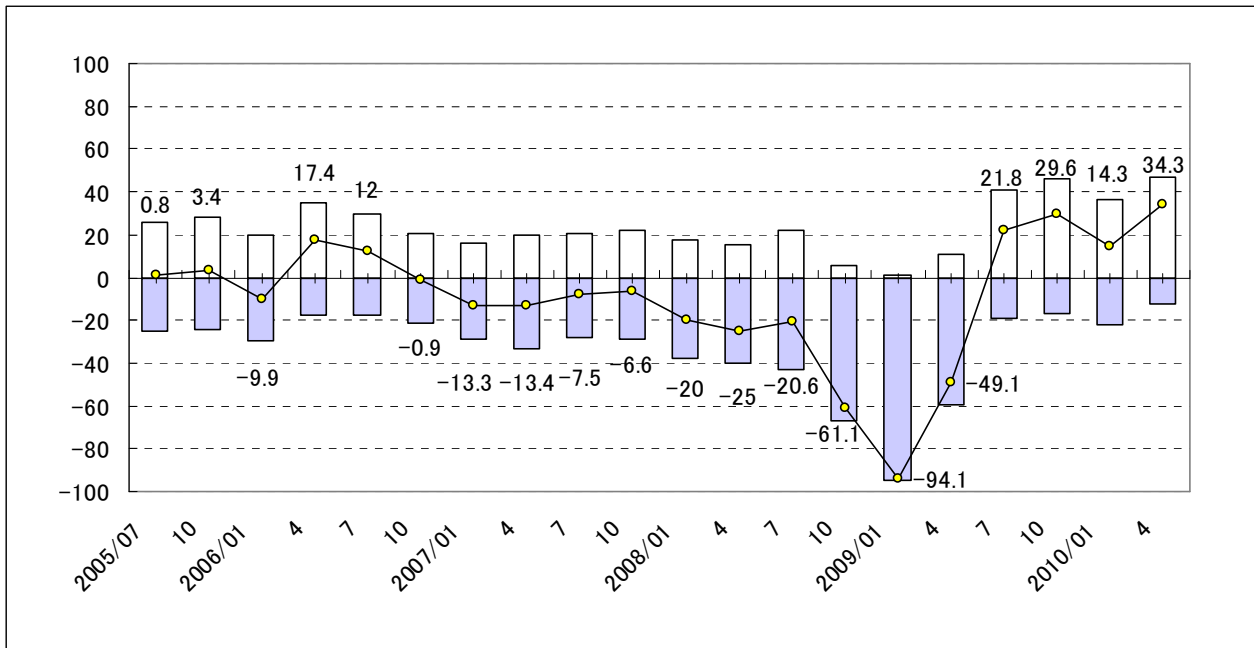
●全社：「3ヶ月後」の予想

グラフー5



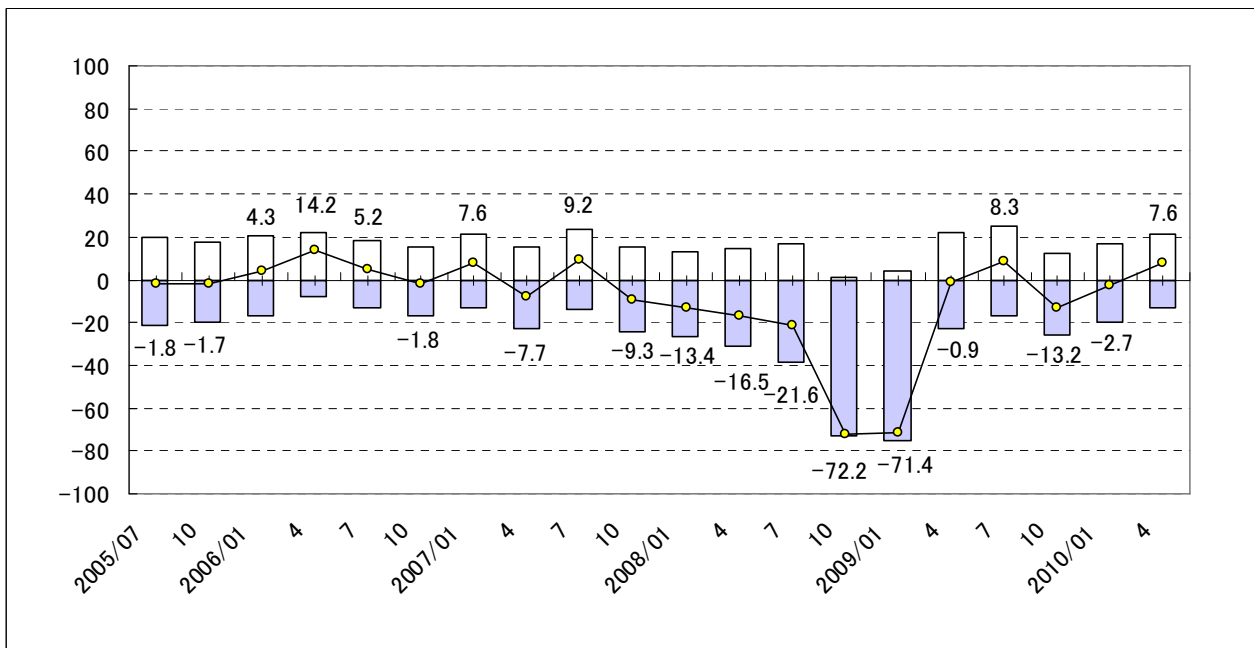
●主要 5 業種：「3 ヶ月前」と比べて

グラフー6



●主要 5 業種：「3 ヶ月後」の受注予想DIの推移

グラフー7



2. 商業・観光サービス業

①商業

「3ヶ月前」と比べて業況判断DIは、「横這」企業が58.3%、「悪化」企業が33.3%で同DIは△25.0と前回調査時から改善しているものの引き続きマイナスで推移している。

御柱祭の山出しが行われ、オードブルや清酒、お土産物等の御柱関連商品の売れ行きは好調であったものの、4月中旬に降雪があるなど寒暖の差が激しい気候から野菜価格の高騰や春物衣料の売れ行きが弱含む等の影響がみられた。

- 食料品 不順な天候から野菜価格が高騰した。御柱祭関係では、オードブルのほか清酒やビール、ペットボトル飲料の売り上げが伸びた。お土産では、「御柱祭」の名入れがある品物に人気が集まった。
- 衣料品 御柱祭向けの子供用法被や身支度品の売り上げは好調であったが、4月中旬に降雪があった不順な天候から春物衣料の動きは低調であった。
- 自動車 諏訪地方の4月の車庫証明件数(軽除く)は811件で前年同月比△57台(△6.6%)減少と、6ヶ月振りに前年を下回った。
- ホームセンター 御柱祭の接待用の紙コップ類等は動いたものの、不順な天候から園芸用品やお花見用品の動きは例年に比べ弱かった。
- 大型家電店 薄型TVは3月までみられた御柱需要がなくなり、4月の販売は前月比・前年比ともに減少した。

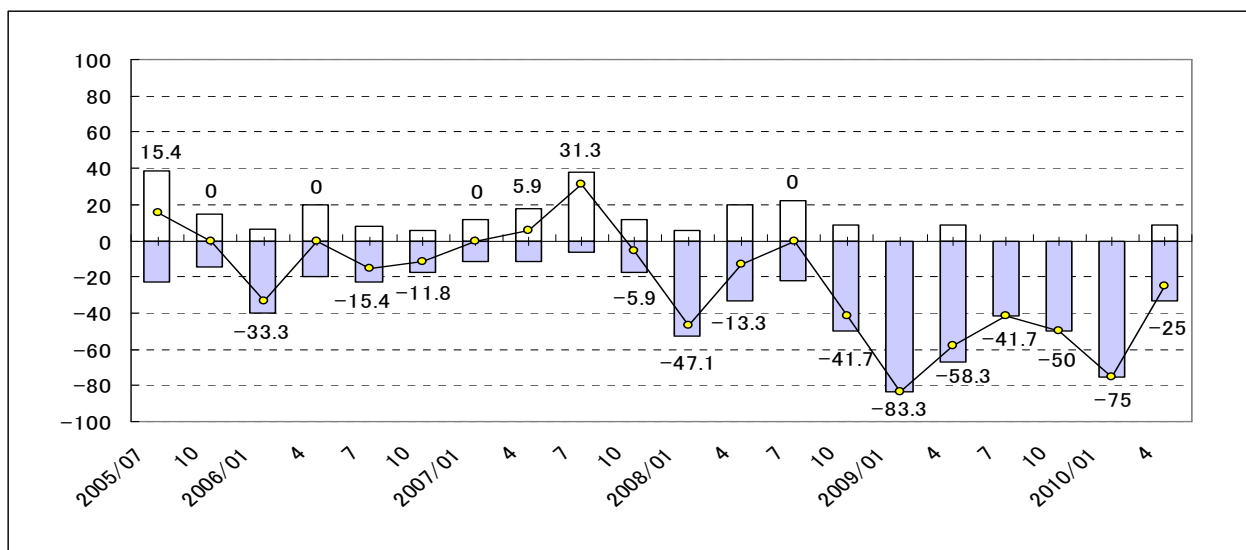
業況、客単価、来店客数

表-4

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	12	8.3	58.3	33.3	-25	12	16.7	25	58.3	-41.7	12	8.3	66.7	25	-16.7
客単価	12	16.7	58.3	25	-8.3	12	16.7	33.3	50	-33.3	12	8.3	58.3	33.3	-25
来店客数	12	8.3	41.7	50	-41.7	12	16.7	16.7	66.7	-50	12	25	50	25	0

●商業全社の業況判断DIの推移：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-8



②観光・サービス業

7年に一度の御柱祭が始まり、4月に行われた山出しへの人出は「上社 50万9千人（前回比+4万9千人）」、「下社 53万6千人（前回比+1万3千人）」とたいへんな盛り上がりを見せた。

御柱祭効果から、「3ヶ月前」と比べた業況判断DIは48.1%の施設で「好転」したとして22.2と前回調査時の△50.0から大幅に改善しプラスに転じた。ただし、「前年同期比」での業況判断DIは△7.4、客単価DIは△18.5といずれのDIも37.0%の企業が「悪化」としており、水面下のまま推移している。

- 上諏訪温泉 御柱祭の当日は満館となるホテル旅館がみられたものの、日帰り宴会の減少や平日の集客低下により売上状況は前年並みの施設が多い。
- 蓼科・白樺湖・寒暖の差が激しい不順な天候の影響から入り込み客数は前年に比べ減少した模様。また、御柱祭と天候の影響からゴルフ場の入場者数も減少した。
- 下諏訪温泉 下社 山出しの効果から宿泊客数は前年を大きく上回るも、日帰り宴会が大幅に減少した旅館が多い。
- 諏訪大社 上社・下社を合わせた4月の参拝客数は約93千人と、前年同月比約56千人の大幅な増加となった。

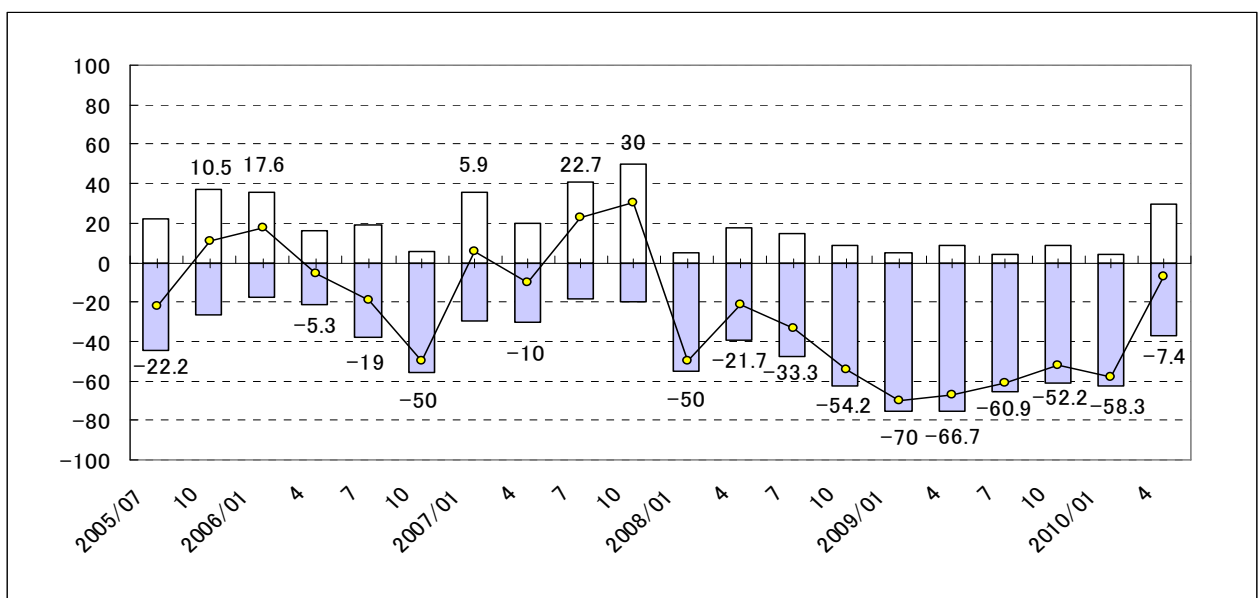
業況、売上、宿泊客

表-5

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	27	48.1	25.9	25.9	22.2	27	29.6	33.3	37	-7.4	27	22.2	59.3	18.5	3.7
客単価	27	29.6	40.7	29.6	0	27	18.5	44.4	37	-18.5	27	11.1	66.7	22.2	-11.1
宿泊客数	27	51.9	14.8	33.3	18.5	27	37	33.3	29.6	7.4	27	29.6	40.7	29.6	0

●観光・サービス業全社の業況判断DIの推移：「前年同期」と比べて

グラフ-9



3. 建設業

「3ヶ月前」と比べた業況判断D Iは、「好転」企業 14.3%、「悪化」企業 28.6%で同D Iは△14.3と前回調査時の△42.9から 28.6ポイント改善した。また、「業況」や「受注状況」の各D Iでは、少数ながらも「好転」とする企業があるものの、「外注発注量」は「3ヶ月前比」・「前年同期比」で「好転」とする企業はなく、下請企業の受注環境の厳しさが伺われる。

①建築工事

諏訪地方の3月の新設住宅着工件数は64戸で、昨年同月の123戸から△59戸(△40.8%)減少した。また、平成21年度の累計着工戸数は1,119戸で前年度の1,482戸に比べ△363戸(△24.5%)と大幅に減少し、なかでも「持家」は764戸と過去最小となった。ちなみに、10年前の平成11年度は、住宅着工戸数2,981戸(うち、持家1,422戸)であった。

②土木工事

長野県関係の4月の公共工事(地元業者受注分)は、発注機関別に諏訪建設事務所3件、農地整備課1件の合計4件、契約金額37百万円となっている。林道治山工事の発注があった昨年同月に比べ、件数は△7件減少し契約金額も△111百万円減少した。

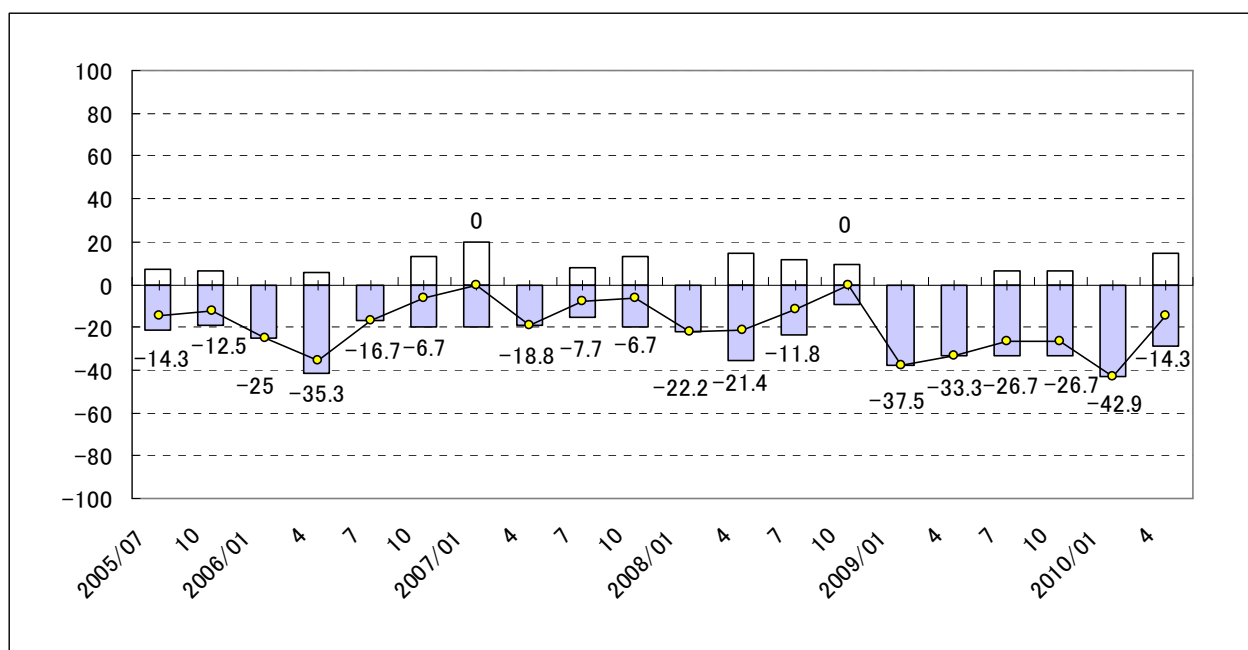
業況、受注状況、外注発注量

表-6

	3ヶ月前と比べて					前年同期と比べて					3ヶ月後の予想				
	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI	回答企業数	好転	横這	悪化	DI
業況	14	14.3	57.1	28.6	-14.3	14	7.1	64.3	28.6	-21.4	14	7.1	71.4	21.4	-14.3
受注状況	14	14.3	35.7	50	-35.7	14	7.1	42.9	50	-42.9	14	7.1	57.1	35.7	-28.6
外注発注量	14	0	50	50	-50	14	0	50	50	-50	14	14.3	42.9	42.9	-28.6

●建設業全社の業況判断D Iの推移：「3ヶ月前」と比べて

グラフ-10



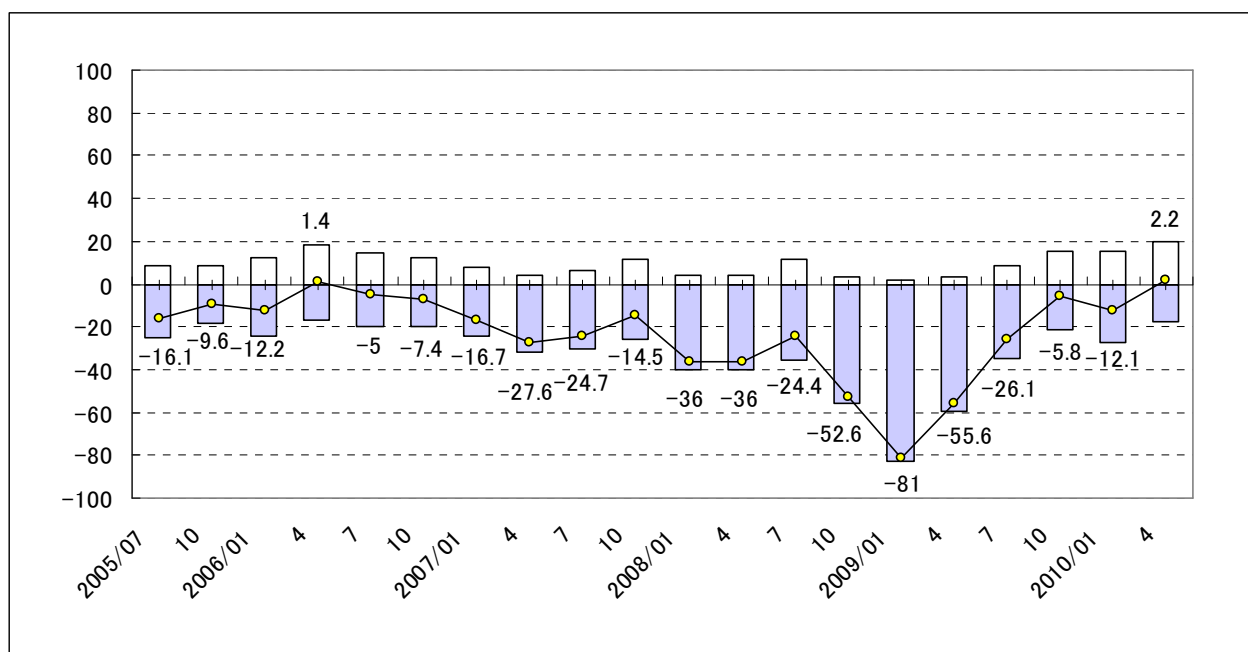
4. 収益性状況

回答全社の「3ヶ月前」と比べた収益性D Iは、「好転企業」20.7%、「横這企業」59.0%、「悪化企業」20.2%で同D Iは0.5と前回調査時の $\Delta 24.6$ から大幅に改善しプラスに転じた。

製造業は、「3ヶ月前」と比べ収益性が「好転」した企業が20.0%、「悪化」した企業が17.8%で同D Iは2.2と前回調査時の $\Delta 12.1$ から14.3ポイント好転し、平成18年4月以来16期振りにプラスに転じた。また、非製造業の「3ヶ月前比」の収益性D Iは $\Delta 3.8$ と前回調査時の $\Delta 60.0$ から56.2ポイントの大幅な改善となったもののプラスには転じていない。

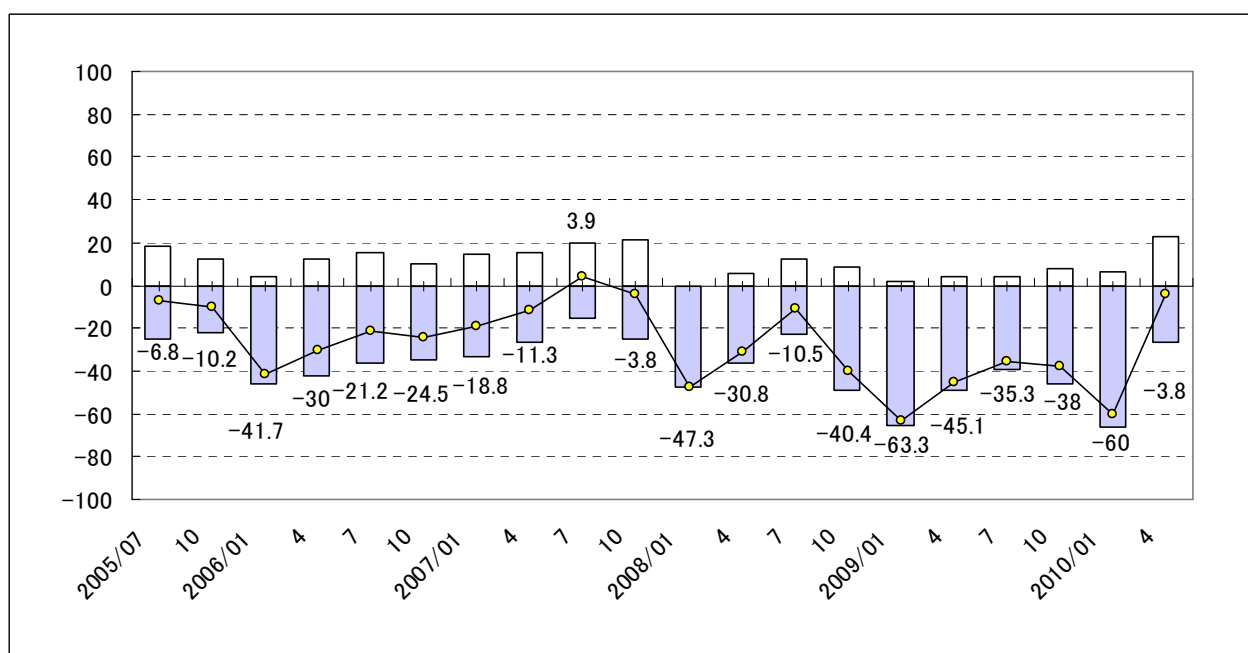
●製造業の収益性D I：3ヶ月前と比べて

グラフー11



●非製造業（商業、観光・サービス業、建設業）の収益性D I：3ヶ月前と比べて

グラフー12



5. 経営上の課題

経営上の課題として、①製造業は売上減少、単価引下げ、競争激化をあげる企業が多く、②商業は売上減少、単価引下げ、競争激化、③建設業は売上減少、競争激化、④観光・サービス業は売上減少、単価引下げをあげている。

経営上の課題	合計	製造業	商業	建設業	観光・サービス業
売上減少	91	60	7	9	15
単価引下げ	77	58	6	3	10
競争激化	65	44	5	9	7
資金繰り	39	29	3	1	6
人件費	29	21	2	1	5
労働力確保	17	14	0	0	3

6. 諏訪地方主要経済指標

主要指標		実数	前年同期比	
有効求人倍率【3月】	諏訪公共職業安定所	0.51倍	±0ポイント	
手形交換高【4月】 (諏訪手形交換所扱)	枚数	7,943枚	△1,162枚	
	金額	11,264百万円	△2,579百万円	
	うち不渡り発生状況	枚数	8枚	△2枚
	金額	5,133千円	△2,370千円	
電力使用量【4月】 (中電諏訪営業所管内)	電灯電力計	67,517 MWh	+9.9%	
	高压電力計	102,610 MWh	+12.6%	
	合計	170,127 MWh	+11.5%	
車庫証明取扱件数【4月】(諏訪地方合計)		811件	△6.6%	
新設住宅着工件数【H21年度】(諏訪管内)		1,119件	△24.5%	

7. 調査概要

DI調査：業況が「好転」と答えた企業割合から「悪化」と答えた企業割合を引いた数値

- 調査期間 平成22年4月末
- 調査内容 「平成22年4月末」の実績と、「3ヶ月前」と「前年同期」の業績比較及び「3ヶ月後」の予想
- 調査方法 アンケート調査(回答数 下記7)及びヒアリング調査(約120社)
- 対象地域 諏訪地域全域
- 業種 製造業、商業(大型店：売り場面積501㎡以上)、建設業、観光・サービス業
- 回答企業数 188企業
- 回答率 66.4%

	製造業	商業	建設業	観光・サービス業他	合計
依頼数	215	20	20	28	283
回答数	135	12	14	27	188